

# CSR報告書



# CSRとは

CSRとは？

CSRとはCorporate Social Responsibilityであり、「企業の社会的責任」と訳されます。これはステークホルダー(利害関係者)に対して、様々な形での責任を果たしていく活動のことを言います。例えば、取引先の要望に応えること。この活動ですら顧客というステークホルダーに対するCSRなのです。現在、社会に出ている世代でもCSRについての認知度があまり高くない状況です。

しかし、CSRを実施していないわけではなく、行っている活動がCSRであるという認知がないだけなのです。

リガルジョイントの稲場社長には夢があります。『世界に羽ばたくメーカーになる。そして私達が提供する商品・サービスを世界中のお客様に使っていただき喜んでもらうことです』 私たちの考えるCSRとは利害関係者に対して好影響を生み出す活動のことです。それは稲場社長の言葉で表現すると『喜びを生み出す活動』です。私たちがこれから紹介するリガルジョイントという企業は多くのCSRを行い、そして多くの人が喜びを感じる機会を提供しています。

## 三学部横断型 ゼミナール・プロジェクト月曜2限



武蔵大学 ゼミの武蔵

# 目次

リガルジョイントの軌跡 ～多くの試みと共に～	..... 3
トップメッセージ	..... 5
企業風土	..... 6

## 社員

### — Employees —

- LOVE休暇
- サークル活動
- イベント・行事
- 研修制度
- インタビュー

..... 8



## 共生

### — Company & Local communities —

- 企業 冷温水空調システム/ SCFチューブ  
オゾン/ カンタッチ
- 地域 障がいを持つ方々への自立支援  
未来ある子供たちに向けて  
定期的な美化活動  
オゾン水を通じた地域交流

..... 16



## 環境

### — Environment —

- リサーチ&ラボ
- オゾン技術を使った取り組み
- 日々の取り組み
- 運搬・流通・取り引き先
- 地域の方とともに

..... 26



# 企業 沿革

## リガルジョイントの軌跡

～多くの試みと共に～

1988年

ホース用継ぎ手「**カンタッチ**」発売開始  
～リガルジョイントの大黒柱～



1994年

オゾン製品新規事業開始  
～新たな分野・世の中のために～

1974年創立

～小さくても  
メーカーへ～

1992年

「**羽根車式流量センサー**」  
(FSシリーズ)

「**マジックマニホールド**」発売開始  
～すべてをつなげ～



### ● 特許

2011年

組み立て式マニフォールド  
オゾン水生成装置とオゾン生成装置  
オゾン生成装置

2013年

管継ぎ手  
組み立て式マニフォールド  
冷温水空調システム

1997年

「カルマン渦式流量センサー」(KSLシリーズ)  
開発販売開始

2008年

リサーチ&ラボ完成  
～環境への順応～  
熱交換器開発開始  
～エネファームに導入～

1998年

品質方針を示す  
ISO9001  
認証取得

2002年

環境方針を示す  
ISO14001  
認証取得

2009年

かながわスタンダード  
認定

## ● 受賞歴

2009年

第1回 TAMA環境ものづくり大賞  
(リサーチ&ラボ)  
環境ものづくりの普及促進を図るために多摩地域企業のCO2排出量削減や省エネ・節電などに効果のある環境技術・製品に与えられる。

2011年

第1回 かながわ地球温暖化対策大賞  
(リサーチ&ラボ)  
神奈川県とかながわ地球環境保全に向けた実践的活動や温室効果ガスの排出削減に寄与する優れた取り組みを行った団体や個人に対して与えられる。

2013年

第30回 神奈川工業技術開発大賞 ビジネス賞  
(熱交換器)  
県内の中堅・中小企業が開発した優れた技術・製品に与えられる。

# 会長 社長

## トップメッセージ

取締役会長  
稲場 久二男



代表取締役社長  
稲場 純

### ～「ものづくり」で時代を先駆けし中小企業の要となる～

#### 「知恵を形に」

リガルジョイントは、「知恵を形に」のキャッチコピーのもと、「ものづくり」で日本のこれからを支えていくこと、製品開発を通して地球環境に貢献することを目指しています。

また「お客様の身になって商売をする」という経営理念のもと、お客様や地域の方々との交流に努め、「事業活動を通じて私たちに関わるすべての人を笑顔にする」という思いを持ち、日々企業活動に取り組んでいます。

当社は創業時から「小さくてもいいからメーカーになろう」を合言葉に商品開発を進めてきました。製造の際、当社では社員の興味やアイデアを大事にし、社員に常にチャレンジ精神を持って働いてもらうことを促しています。

主力商品であるカンタッチ製造以来、流体制御機器、熱交換器、オゾン製品等自社の製品を通してお客様に安心・安全をお届けしたいと考えております。

大手企業に負けない中小企業の強みを打ち出し、日本産業の強みである「ものづくり」の力で日本の中小企業の要となることを目指しています。

取締役会長

稲場 久二男

#### 「これからのリガルジョイントのために」

お客様に安心・安全、そして笑顔で当社の製品を使っていただくために、まず製品を作る私たち社員の会社意識を確立し、統一を目指しています。リガルジョイントはその一例として、朝礼に力を入れています。当社では朝礼の際、社員全員で経営理念と社訓を唱和することで、社員一人ひとりにリガルジョイントの従業員であることの自覚を持ってもらうこと、そして会社としての使命を意識してもらうことを目標としています。

朝礼を行う際社員一人ひとりには、業務をただの作業と考えるのではなく、自分たちの仕事の使命を自覚し、果たすことの責任感を持って、これからのリガルジョイントおよび日本産業を支える「ものづくり」を会社全体で発展させていくよう取り組んでいます。

この先もずっと続いていく会社であるよう、社員に経営理念の浸透や常に向上心を持って働き続けてもらう会社環境を作ることが社長としての責任と考えております。

リガルジョイントはこれからも日本の「ものづくり」と地域環境に貢献し続ける企業であり続けます。

代表取締役社長

稲場 純

# 企業風土

企業風土とは、企業独特の環境や社員の中で培われてきた、価値観や信念、習慣のことです。働きやすい環境、社員のやる気やエネルギーを上げるものです。  
ではリガルジョイントならではの企業風土を見ていきます。

## ● 朝の唱和・・・従業員全員で毎朝社訓を唱和します

私たちは利益とコスト追求の為知恵を絞ります。  
私たちは会社という舞台を活用して自己実現を目指します。

私たちは地域社会に貢献します。  
私たちは文化と教養を高めめます。  
私たちは未来を創造し時代を先取りします。



朝礼時の様子です。毎朝身だしなみチェックも行います。



## 主体性を持って働くこと、意識の向上、理念の浸透を目指します

「企業文化」

- 唱和・・・社訓と経営理念の浸透
- 朝礼・・・自主的な意見発表の場
- 研修制度・・・希望すればキャリア何年でもOK

キャッチコピーである「知恵を形に」のもと、「決断・判断・行動・スピード」を促し、徹底した会社の内部環境の充実により働く意識を上げ、「チャレンジ精神」を持ち働くことでリガルジョイントは成り立っています。

## ● リガルジョイントに受け継がれる企業風土

知恵を形に

決断・判断・  
行動・スピード

リガルジョイントは環境に配慮し  
自発性と実現力に満ちた会社です

チャレンジ精神

企業文化

# 構成

## 3つの切り口からみるCSR



### ● CSR報告書の手引き



本報告書ではリガルジョイントのCSR活動を「社員」「共生」「環境」の3つの項目に分けて報告します。大まかにこれら3つをリガルジョイントのステークホルダーと捉え、それぞれの項目に対して行われているCSR活動を詳しく報告していきます。本報告書を手にとった皆様に少しでもリガルジョイントの日々のCSR活動を知っていただけたらと思います。次ページからはまず、企業内部のステークホルダーである「社員」についてのCSR活動を報告していきます。

社員

~Employees~



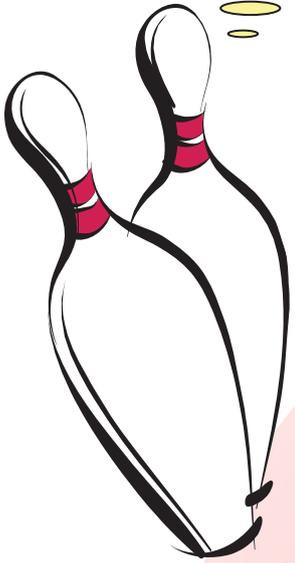
# 社員

## 内部環境

- LOVE休暇
- サークル活動
- 社内イベント・行事
- 朝礼を見て感じたこと  
～学生からの目線～
- 研修制度  
～スペシャリストの育成～
- インタビュー  
～リガルジョイント社員の生の声～
- ふうりんを読んで感じたこと  
～学生からの目線～

社内イベント

研修制度



# 働きやすい 環境

LOVE休暇

社内新聞

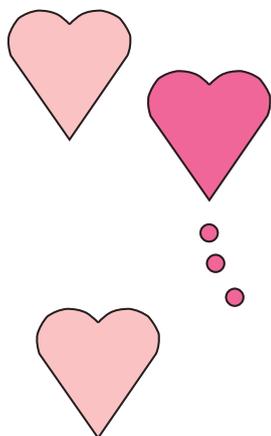


# 社員

## 社員一人一人が 働きやすくするために

リガルジョイントは社員が働きやすい環境がとてもしっかりしています。そこで社員の方へのインタビューをはじめ、リガルジョイントの方に協力してもらい社員に対してどのようなCSR活動を行っているか 調べたところ、リガルジョイントは社員に対するCSRを数多く行っています。

### ● LOVE休暇



リガルジョイントには社員に対するCSRは数多くありますが、その中で最も人気が高いもののうちのひとつにLOVE休暇があります。このLOVE休暇とは自分の大切な人の誕生日を全日休みにすることが出来る制度です。この制度の始まった背景には社員を大切にしている稲場社長らしいエピソードがあります。

稲場社長が社長に就任した時に、自分は前社長と違いカリスマ的で引っ張るタイプではないと考えました。そこで社員がより働きやすい環境を整備するために「従業員満足度アンケート」というものを実施しました。そこで見えてきたことのひとつが「休みがとりにくい」という現状です。この現状をなんとかしたいと思い、稲場社長はLOVE休暇という制度をはじめました。

またこの制度と並行して、有給取得率50%を目指しています。（現在、中小企業の製造業では有給取得率が48%）これもより休みがとりやすい環境を整える制度のひとつであり、近年この数字は達成されています。

### ● サークル活動



リガルジョイントには大学と同じようなサークルがあります。

これは、現在の社長が従業員満足度アンケートの結果に基づいて始めたもので社員同士が親しくなり、より会社を好きになってもらう、より満足した気持ちで仕事をしてもらうために作られた制度です。稲場社長はこの話をしてくださった時、「すぐに出来るものはすぐにやる」とおっしゃっていましたが、この活動はまさにその言葉の体现であると言えます。

現在、リガルジョイントには、自転車、マラソン、バトミントンのサークルがあります。

ここで特徴的なのは、スポーツをする機会を提供しているだけでなく、これらの活動でかかった費用はすべて会社が負担しているということです。ここでも稲場社長は社員がよい環境で働ける場を整えることに尽力しています。

## ● イベント・行事



\*写真 上；社員旅行 下：ボウリング大会

リガルジョイントでは、1年間に3～4回の社内イベントがあります。前述のサークル活動に加えてこれも社員同士の仲が良い特徴のひとつです。

イベントの内容としてはBBQや創立記念イベント、ボウリング大会や富士山登頂など幅広いです。そして3年に1度は社員旅行もあります。特に創立30周年記念であった富士山の登頂イベントでは、登頂した社員には賞金3万円が贈呈されるなど大変盛り上がる様子を感じられます。イベント全体を通して参加率が8割を超えているという数字はリガルジョイントの仲の良さを表しています。

また、一風変わったイベントもあります。それは安全運転セミナーや健康セミナー、コミュニケーションセミナーなどです。

安全運転セミナーは免許を取得している社員を対象に改めて安全運転の大切さを伝えたり、健康セミナーは社員の健康を守るために開催されています。

自分ではなかなか行く気になりにくいセミナーを会社で開催するのも稲場社長の温かい心配りが表れています。

### プチコラム①

#### ● 朝礼を見学し感じたこと

「迫力があつた。」ただその一言だけでした。ひとひひとひが大きな声を出して、暗唱しているのは当然かのような様子で社訓を唱和していました。私たちは、会議室に戻り朝礼を毎日やっている理由を稲場社長に伺いました。「毎朝朝礼を行うのは、ただの作業にならないためだよ。仕事の奥にある社会に与える影響を考える機会にするためだ。」稲場社長がこう語るように、お客様に対しての使命を再確認し、社会にどんな影響を与えたいか、どんな自分でありたいかを考える機会として朝礼があるのです。

また、朝礼の最後に行われる報告会についても伺ってみました。「うちは部署によって仕事内容が大きく異なるので誰が何をしているのかが分からなくなることがある。だからより密なコミュニケーションをとるために毎朝各部署の仕事の報告をしているんだよ。」と稲場社長はおっしゃっていました。

毎日の成果や連絡事項などを自由に発表することで主体的に発言する場になっていることに加えて、コミュニケーションとしての場にもなっています。これがイベント参加率80%の社員の仲の良さにも繋がっているのだらうと感じました。この朝礼では自分を見つめ直し、共に働く仲間を知ることが出来ると感じました。あの迫力のあるリガルジョイントの朝礼にはこんなにも明確な目的があり、この朝礼を継続し続けているからこそ今のリガルジョイントがあるのではないのでしょうか。

# 社員

## ● 研修制度

リガルジョイントの研修制度はとても自由で、社員が自分で受けたい研修やセミナーを選ぶことができます。このような制度にしているのは理由があります。

リガルジョイントは製造部や営業部など様々な部門があるため求められるスキルが異なります。よってそれぞれの分野でのスペシャリストになるために、このような研修制度を採用しているそうです。目立った人や管理職だけが研修のチャンスを与えられるわけではなく、チャンスはみんな平等で学ぶ機会はどの社員にも与えられていることも特徴のひとつといえます。

また研修を通して社外の人と交流することができます。他社も含めた新人同士の交流会や若手同士の交流、新人若手合同の交流など幅広い交流の機会も研修を通して与えられています。ここでは、意欲次第で学ぶことも人脈を広げることにも出来、学習意欲の高い人にとってかなり恵まれた環境であるといえるでしょう。



## ● インタビュー

社員に対するCSRを調べ、実際の社員の方が普段の仕事でどんなことを感じているかを知りたいと思いました。そこで社員の方にインタビューをする機会をいただいたので社員の方の生の声を掲載します。



柳井 栄子さん

私の普段の仕事は注文を受けたり、売り上げの処理をする営業の内勤の仕事を担当しています。私がリガルジョイントで働いて特徴的だと感じるのは、教育制度についてです。弊社の教育制度は「好きなものを好きなだけ」というスタイルなんですよ。

この制度は自分で好きな他社のセミナーや研修を探してきて、会社に申請をすれば自由に勉強することができます。実際に私は、「事務ミスゼロの仕事術」というセミナーを受け、社内で定期的に行われる改善提案の際には非常に役に立っています。

ちなみに、社内で年に3~4回開催されるBBQイベントや創立記念パーティなどにはほとんど参加していますよ。参加率は約8割程度で普段は関わらない部署の人とも話せて充実した時間になっています。



佐藤 健一さん

私は新入社員の頃から合わせて7~8ほどの研修を受けてきました。研修を受けて普段の仕事に戻った時、最も力がついたと感じるのは、お客様との話の際にお客様の言葉に対してすぐに切り返しができるなど言葉が流れるようになってくるようになったときです。また研修を受けていて違う業界の人や他社の人と話が出来て交友関係が広がるのは嬉しいと感じますね。

私が感じる弊社の特徴は、風通しのいい環境があるので「上との繋がりが近い」ということです。この環境のおかげで私たちは若い時から意見を積極的にいうことができて社内で切磋琢磨していくことができました。

私が最もやりがいを感じる時は、「お客様の話を聞いて一緒に創り上げ、それを販売し、感謝される時」ですね。丁寧なヒアリングからお客様の求めるものが完成した時は強く達成感を感じますね。

私は広報企画課に所属しており、普段の仕事は会社のHPや商品のカatalogのデザインを主に手掛けています。デザイナーとして私がこの仕事のやりがいを感じるのは「自分の作成したページが公開されお客様のもとに届き、そしてお客様が購入に至った時」ですね。

またこの仕事をしていて、最もつらく感じることは、期日の近い案件です。私の仕事の性質上、なかなか案が出てこないと感じます。

また弊社は男性の割合が高いのですが、女性であることを不利だと感じることはありません。重いものを扱う仕事は男性が担い、細かい仕事や事務仕事を女性が担うといった分担がされており、社員のひとりひとりがいい環境づくりに努めていると感じます。



田野倉 貴子さん

## プチコラム②

### ●社内新聞「ふうりん」を読んでみて

リガルジョイントには20年以上の歴史を誇る社内新聞である「ふうりん」という文化があります。実際にこの「ふうりん」をいただいて読ませていただきました。マザーテレサや、大手電化製品メーカーの創設者の言葉など偉人の言葉をはじめ、人生の教訓にしたい四字熟語やことわざの紹介など、なかなか日常では目につきにくい自己を啓発してくれるような内容が揃っています。また、会社の理念や社長会長の言葉、それだけではなく社員の結婚状況や子供の入学情報など会社のことを改めて考えるだけでなく、お互いがお互いのことを知り合えるような仕組みが整っています。先述しましたが、イベント参加率から見て分かるようにリガルジョイントは社員の仲が良いです。このように近況を会社全体で共有していることも仲が良い要因のひとつとしてあると考えました。現在の「ふうりん」の執筆者である後藤さんは、「私たちはこの「ふうりん」を通して多くの人に弊社のことを知ってほしいと思っています。「ふうりん」は社員だけでなく、銀行の方や商工会議所、教育関係者の方にも読んでいただいていますので、これからも誰が読んでも弊社の魅力が分かるような「ふうりん」を書き続けていきたいと思っています」と語ってくれました。

# 社員 まとめ

## 社内イベント ～餅つき大会の様子～

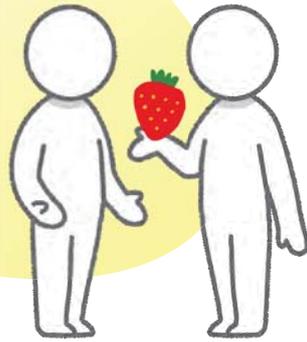
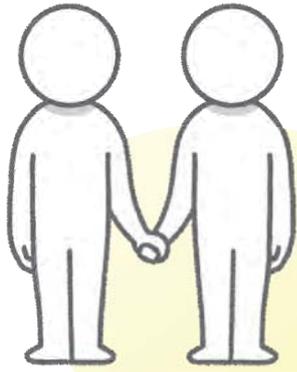


## 社員旅行 ～懇親会の様子～

稲場社長の考える今後のCSR展開として出産手当金を上げることがあります。現在少子化が進んで子供が産みにくい社会と言われています。そこで稲場社長は、子供が生まれる時にかかる費用の少しでも会社が負担できればと思い、出産手当の引き上げを検討しています。

私たちが社員に対するCSRを調べていて、社内制度を整備するために稲場社長が常に改善を求めて行動しているということがお話を聞いていく中で強く伝わってきました。

さて、次項では企業と地域に対するCSRについての紹介を行います。次に共生に対してのCSRもリガルジョイントの独特な取り組みを紹介していきます。



# 共生

*~Company &  
Local communities~*



# 共生



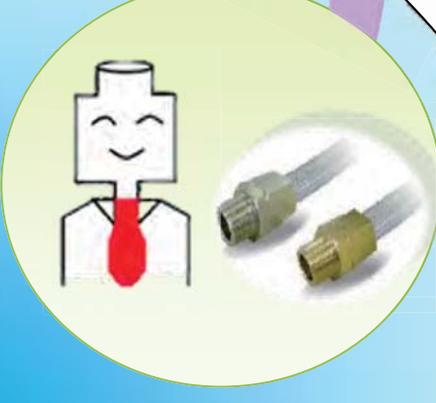
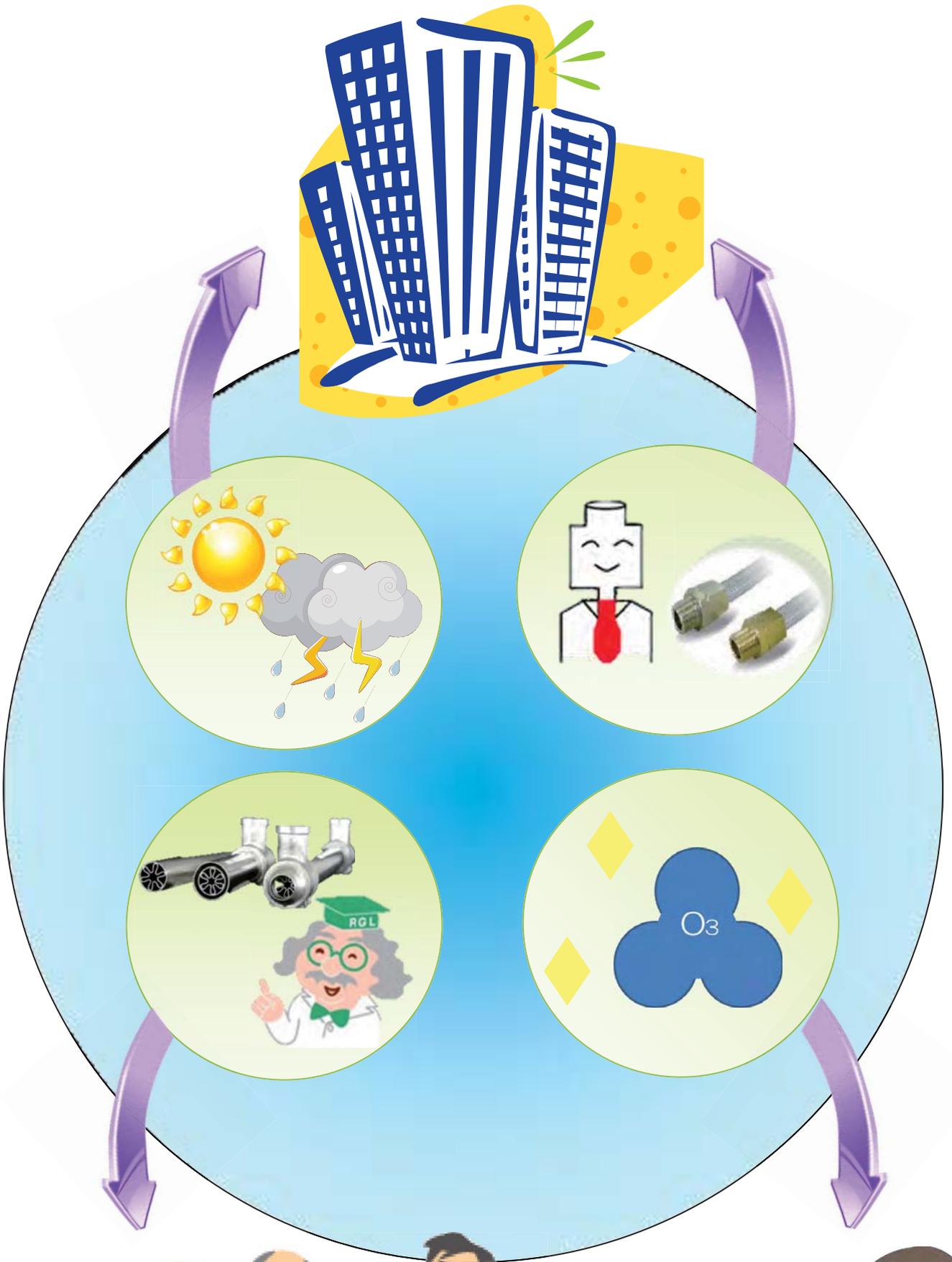
## 企業

- 冷温水空調システム～特許取得への道のり～
- SCFチューブ～お客様のニーズに全力で対応～
- オゾン～先駆者としての責任～
- カンタッチ～商品自身が営業マン～

## 地域

- 障がいを持つ方々への自立支援
- 未来ある子どもたちに向けて
- 定期的な美化活動
- オゾン水を通じた地域交流





## リガルジョイントの取り組み

リガルジョイントは、「こんなものがあっていいな」という顧客からの要望にできる限り沿った商品展開を心がけています。リガルジョイントの経営理念の「知恵を形にする」という考えを念頭に置き、ものづくりへの情熱を絶やさず、よりよい商品をつくれるよう、日々精進しています。

### ● 冷温水空調システム～特許取得への道のり～

特許を取得した冷温水空調システムとは、地中熱を利用したヒートポンプ方式の冷暖房システムで、熱媒体には水が利用されています。システムは地下貯水槽、ヒートポンプ（熱媒体などを使って低温部から高温部へ熱を移動させる技術）と配管で構成されており、複雑な装置を必要としないため、施工費も安く抑えることができます。

このシステムは、ヒートアイランド現象（郊外に比べ、都市部ほど気温が高くなる現象）を防ぐことをはじめとした環境に対する問題を解決していこうという意図がこめられており、その結果特許を取得することができました。リガルジョイントは、こうした技術を社内だけに留まらせるのではなく、社会に発信していくことで世界にエコロジーを推奨しようという働きかけをしています。このような外部に向けた環境への意識向上の働きかけが、現在問題視されている環境問題の改善につながることを期待しています。



図：ヒートポンプ方式の仕組み

技術の発信で  
エコロジーを推奨

稲場会長が大手建設会社にこの話を持ちかけたとき、一度は「無理だ」と断られることもありましたが、しかし、「お金を払うのは私なのだから、失敗してもいいから、施工してくれ」と頼み込んだ結果、このシステムは実現しました。会長のものづくりへの情熱が、特許取得のきっかけになったというわけなのです。

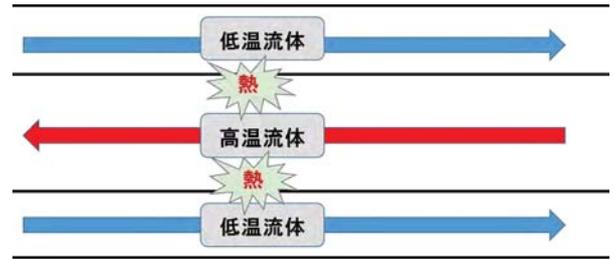
### リガルジョイントのビジネスコンセプト

リガルジョイントは、自らの強みを活かすことがビジネスにとって大切であると考えていますが、それだけでなく、企業間で手を取り合ってネットワークを形成し、その間に生まれた複合技術による新ビジネスを展開し未来を作りだしていくこともまた、ビジネスにおいて重要なことであると考えています。そこになくってはならないものとして、それらを提供し続ける側のものづくりへの情熱もビジネスにとっては欠かせない要素であると考えています。



## ● SCFチューブ～お客様のニーズに全力で対応～

SCFチューブとは、シューティングクローバフィンチューブを省略した商品名であり、熱交換器の一種です。熱交換器とは熱エネルギーを異なる流体に伝え、エネルギー交換をする装置です。このSCFチューブは従来問題視されていた項目をクリアしただけでなく、生産時にチューブの太さを変えることができるのが特徴で、顧客からのニーズに柔軟に対応することができる商品になっています。



図：熱交換の仕組み

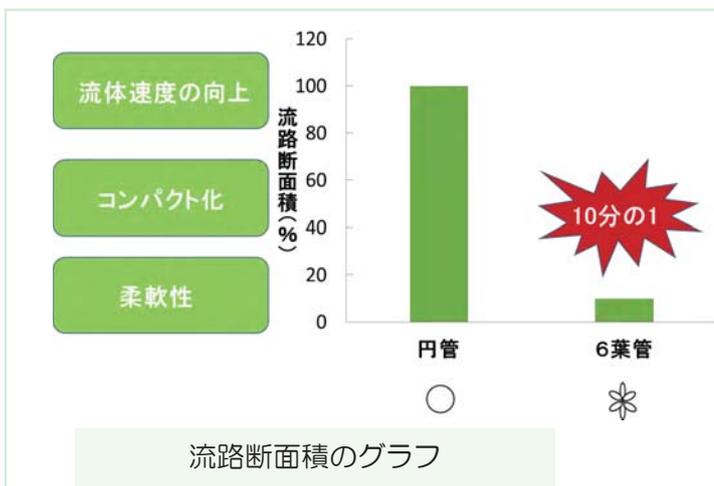
「熱交換器のサイズは小さくして、熱交換効率をもっと上げたい」  
 「熱交換器を製作しているが、性能が思うようにならない」  
 「条件にピッタリ合う熱交換器を提案してほしい」  
 「決まっている取り合いを変えずに取り付けたい」  
 「設計工数を考えると、新たな熱交換器導入に踏み切れない」



そのお悩み、リガルジョイントにお任せください！

伝熱面積は従来の円管の**1.8倍**！

流路面積は従来の円管の約10分の1まで縮小！→熱伝達率の向上  
 チューブの太さを変えることができ、注文に対して柔軟な対応が可能



リガルジョイントは、自らの力を最大限に活かし、多くの人に喜んでもらうために、どのような要望にも対応するという信念のもと活動を行っております。そのため、顧客の状況を詳しくヒアリング、面倒な熱交換率の計算もしたうえで最適な使用を提案しています。リガルジョイントでは自らの技術を一人でも多くの人に理解してもらい、快適に使用してもらう為に、顧客の要望に寄り添いながら提案していくことを自らの強みとしています。

### ● オゾン～先駆者としての責任～

会長がリガルジョイントを創設する前、ガス会社に勤めていた時代からずっと注目しつづけていたものにオゾンという物質があります。オゾンには、簡単にいうと殺菌・脱臭・漂白・浄化などの効果がありますが、実際には良いイメージを持たれることはあまり多くありません。そこで、オゾンの力を広く認識してもらい、この便利でエコロジーな資源を最大限に利用していくことが環境問題の改善につながると考えました。

殺菌

脱臭

漂白

浄化

安心

安全

安価



図：熟成オゾン水生成システム

リガルジョイントでは「安全、安心、安価」をオゾン製品に反映させ、システムを構築しました。このオゾンシステムは酸素発生装置（PSA）を内蔵しており、オゾン発生の原料に空気中の酸素をだけを利用しているので、人体に有害な窒素酸化物を発生させません。また、オゾン分子は時間とともに安定した酸素に戻る性質があるので、残留物を残さず、二次公害を引き起こさない、環境に優しい物質なのです。

### 熟成オゾン水を使った鮮度保持実験

殺菌作用だけでなく、変色防止、鮮度・風味を保つことができるのもまた、熟成オゾン水の魅力です。以下の実験はカットリンゴを水道水、熟成オゾン水のそれぞれで洗浄し、1週間観察を実施したものです。



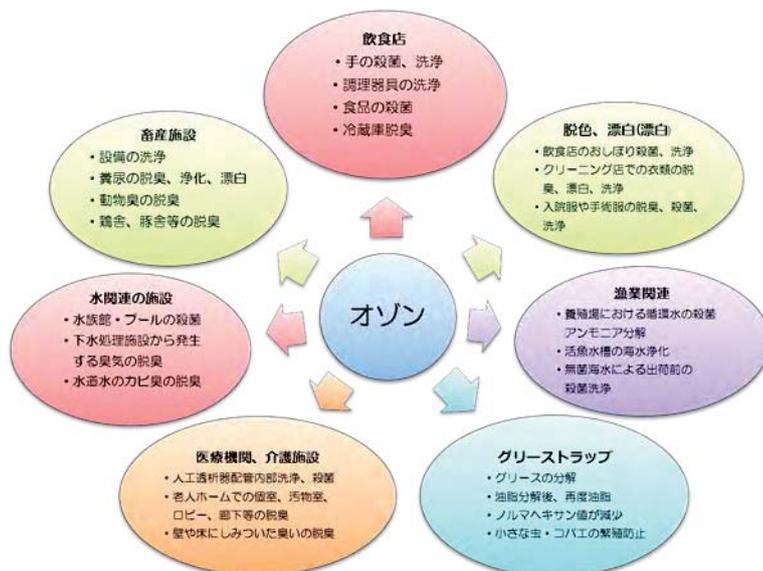
水道水で洗浄後1週間経過



オゾン水洗浄後1週間経過

カットリンゴ  
の  
鮮度保持実験

オゾンシステムといわれると、直接手にとって実感することはなく、企業間取引を行う会社が利用するものという間接的なイメージがあるという方も少なくはないはず。しかし、リガルジョイントの開発したオゾンシステムからできたオゾン水では、飲食店・食品加工工場・医療機関をはじめとする様々な機関で利用され、消費者の方へサービスをお届けする過程で重要な役割を果たしているのです。こうして自らが先駆者となり、オゾンの有効性・安全性を広めていき、必要性を世間に発信していくことが、果たすべき責任であると考えています。



## ● カンタッチ～商品自身が営業マン～

カンタッチとは、ものともものをつなげる役割を果たす継ぎ手の一種で、従来問題視されていた、継ぎ手の取り付け作業を誰でも簡単・安全に行えるよう開発されたリガルジョイントの代表的な製品のひとつです。より使いやすいようにと開発されたこの製品は、水や薬液など様々な流体に対応可能しており、顧客からの特注にも対応しています。



営業いってきま～す!



商品自身が  
営業マン

リガルジョイントの考え方の一つに、「商品自身が営業マン」というものがあります。リガルジョイントでは、営業回りは一切行わず、顧客に製品をまず試してもらってから、購入してもらおうという営業方法をとっているのです。カンタッチが完成した時も、取引先に赴いて売り込むのではなく、製品を配送し、まずは使用してみて、使いやすさを実感してもらってから取引をするという方法を取りました。その際、配送費やその他にかかる費用をすべて負うという、一大の決心のもとカンタッチは世に輩出されていったのです。

このようにユニークな取り引き方法で世に羽ばたいていったカンタッチは、顧客からの反応もよく、正式な取引の元使用したいという声が多数寄せられ、事業拡大へつながっていきました。無理だと反対されることもあり、リスクが大きい事業ではありましたが、リガルジョイントで大切にされている、**無いものがあるものにする**という考え方や、「失敗を恐れず、何にでも挑戦していこう」という**チャレンジ精神**のもと、満足してもらえる製品を提供できたことは会社全体の大きな成長に繋がったと考えています。

～思い立ったら即行動の四か条～

決断

判断

行動

スピード

リガルジョイントでは、地域の方々との交流にも力を入れています。障がいを持つ方々への自立支援、子供たちに向けての職場体験、定期的な美化活動や、オゾン水を通じた地域の交流イベントなど、さまざまな活動を行っています。ここではコラムも交えて地域環境の活動を報告します。

### ● 障がいを持つ方々への自立支援



リガルジョイントでは、障がいをもつ方々が通う地域活動支援センターの「第一けやき」、「第二けやき」に軽作業を委託しています。この取り組みは障がいをもつ方々の社会復帰へのきっかけの場を提供するとともに、リガルジョイントとしては組み立てや梱包、検品などを行ってもらうことによって、新たな発見に繋がります。このように相互理解のもとけやきのみなさんと良い関係を築くことができています。

2カ所の施設は当社から周囲2キロメートル圏内にあることから、毎年の防災訓練をリガルジョイントと協同行うなど、大切なパートナーとして助け合う関係でもあります。さらに毎月一回、リガルジョイントとけやきの皆さんで合同の品質会議を行っており、月々の不良発生状況とそれに対する対策の立案について活発な意見交換がなされています。

### ● 未来ある子どもたちに向けて



リガルジョイントでは、定期的に相模原周辺の中学校と提携して職場体験や、会長である稲場久二男会長が学校に赴いての「ふれあいゼミナール」を実施しています。職場体験では実際に当社の製品の組み立てや梱包などを体験してもらい、子供たちに「ものづくり」の楽しさや達成感を知ってもらう狙いがあります。「ふれあいゼミナール」では子供たちに向けて会長自身の経験談やこれからの日本の産業で子供たちに担ってほしいことなどを伝えています。

企業訪問を終えて

プチコラム①

「ものづくり」という言葉にとっても重きを置いているのが印象的でした。これから取り組んでいかなければならないことは世界に通用するものづくりであり、ものづくりで日本を豊かにすることが目標だと語っていただきました。日本のこれからを支える「ものづくり」の力を伝えるこのような取り組みは子どもたちにとって素晴らしい機会だと思います。



## ● 定期的な美化活動



水曜清掃の様子

リガルジョイントでは、社会貢献活動の一環として毎週水曜日の始業前に管理職の方による社屋周辺の清掃活動を実施しています。定期的な美化活動をすることで、地域社会に貢献し、地域住民との交流を図っています。近所の主婦の方より、「掃除ご苦労さん」とのお声がけを頂いています。8時半からの朝礼前の朝早い時間帯での活動となるので、地域住民との直接の交流はあまりもてませんが、リガルジョイントではこういった活動は「自分たちに関わった全ての人を幸せにする」という志のもと活動しています。陰ながらこの活動が地域住民の方々への恩返しとなれば幸いと考えています。また当社では水曜日を全社員定時間日と定めており、社内向け放送にて定時間での帰社を促しています。



### プチコラム②

企業訪問に行った際の水曜清掃に関する質問の回答でも、「我々はこの地域貢献活動に周囲の反応を求めているわけでは  
ありません。当たり前のこととしてとらえています」と社長自身がおっしゃっていたのが印象に残りました。

## ● オゾン水を通じた地域交流



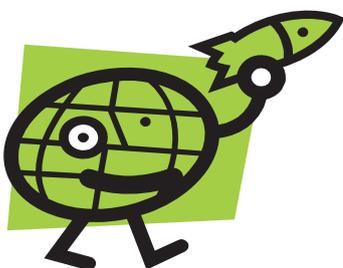
熟成オゾン水で洗浄

水道水で洗浄

リガルジョイントでは、熟成オゾン水を使って地域の方々  
とイベントを行っています。熟成オゾン水とは、独自の技法  
で水とオゾンを混ぜ合わせ、オゾンの害を完全に  
取り除いた安全な飲料水です。この熟成オゾン水で洗  
浄したイチゴは洗浄後7日経過してもツヤがあり、赤  
い色味を保持していました。これに対し、水で洗浄し  
たイチゴはカビが発生したという結果になりました。  
熟成オゾン水で洗浄したイチゴを地域の方々  
に配って回り、オゾンのメリットを伝えるとともに、  
地域の方々との交流の機会を設けてきました。

このイベントの始まりは、稲場久二男会長が社長であった  
ときに行った、雨水をオゾンで殺菌処理した無菌酸素水  
によるイチゴの水耕栽培実験に遡ります。工場内に水耕  
栽培実験室を設けて始めたもので、設備投資など経費も  
大幅に削減できるというメリットがあります。

## ● さらなる地域交流を目指して



リガルジョイントではさらなる地域住民の方々との交流の為に、今後リガル  
ジョイントの本社であり研究施設であるリサーチ&ラボを、相模原の地域住民  
の方に貸し出すことを対象として考えております。  
近年、数不足が問題になっている放課後の学童保育の場として、地域の方々  
のレクリエーション施設としての貸し出しを考えており、地域の方々により気軽  
にリガルジョイントという会社に関わっていただければと思います。

# 共生 まとめ



## 企業に向けて

- 特許取得でエコロジー推奨
- 環境を見すえた商品展開
- オゾンの安全性を伝えるために
- よりよい継手の展開

## 地域に向けて

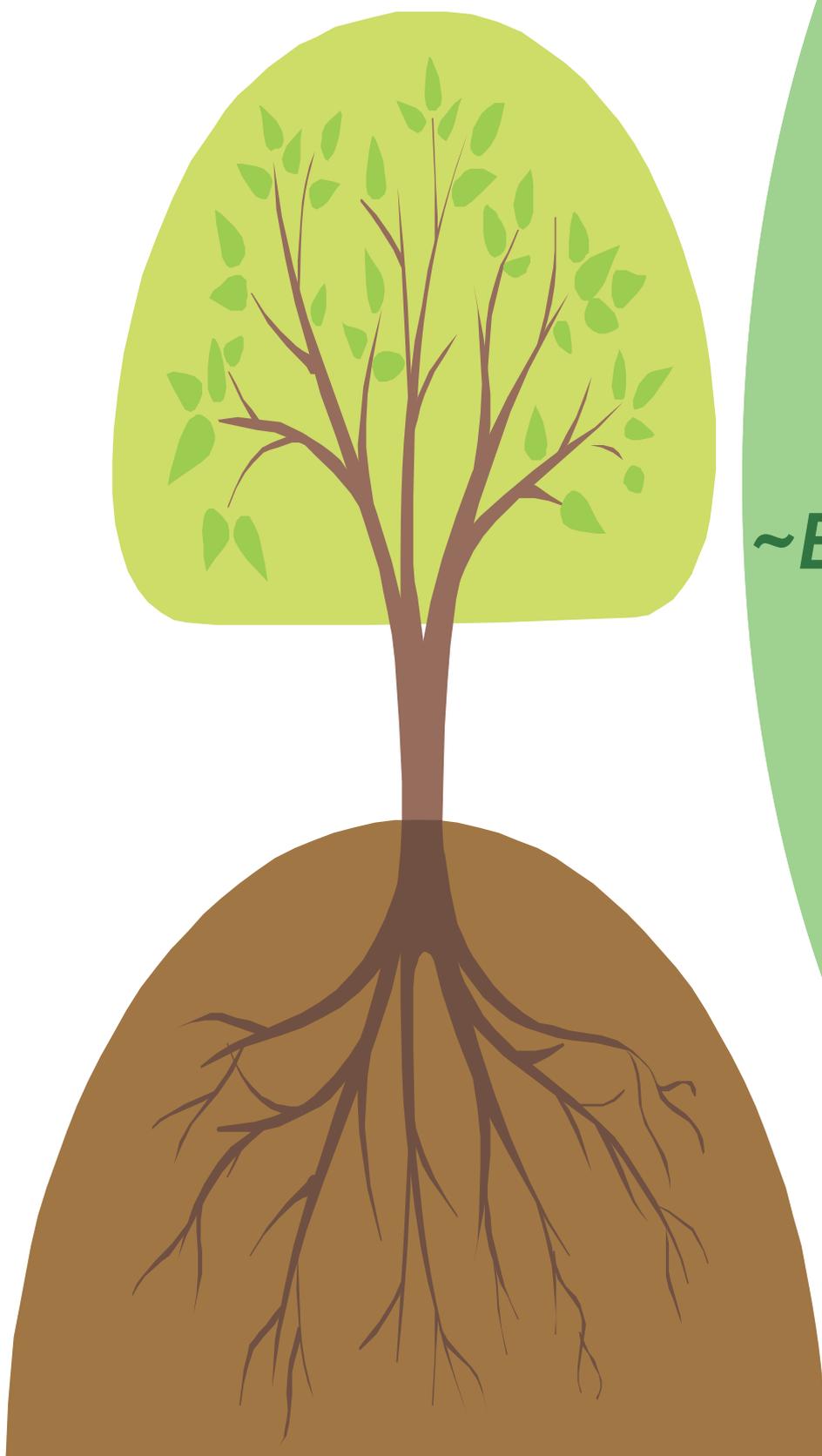
- 障がいを持つ方々への支援
- 職業体験への協力
- 定期的な美化活動
- オゾン水を通じた地域交流

このようにリガルジョイントは製品を通じて、顧客に対して様々な貢献をしています。

今後、更なる成長を果たしていくためには、技術の向上だけでなく、顧客とのネットワークを通じて、新しい技術を生み出していくことが大切であると考えています。そのためには、ものづくりの情熱をもち、顧客の要望に全力でお応えすることを第一に考え、よりよい製品を作り出していくことが責任であり、ありたい姿です。これからもリガルジョイントはその強みを生かし、いっそう社会に貢献していくことでしょう。

また地域の方々との繋がりも、創業当時から大事にしてきました。オゾンに対する世間の認知度が今よりも低く不安度も大きかった頃から、研究開発施設である「リサーチ&ラボ」を通して、地域の方々からの応援を得てきました。相模原市との関わり、地域の方々との信頼関係があつてのリガルジョイントという考えを第一に、商品開発に邁進、オゾンの有用性、安全性を伝えながらここまでやってきました。様々な地域活動を紹介してきましたが、リガルジョイントは今後もさらなる地域密着を目指しています。

続いてはリガルジョイントが環境に対してどのような貢献をしているかを紹介していきます。



環境

*~Environment~*

# 環境

## ・リサーチ&ラボ

- ・ソーラー発電蓄電システム
- ・冷温水蓄熱システム

## ・オゾン技術を使った取り組み

- ・雨水再利用オゾン処理システム
- ・ウイルスの不活性化～熟成オゾン水の未来～

## ・日々の取り組み

- ・節電への取り組み
- ・エコアイディア
- ・運搬時のエコ
- ・マングローブ植林対応型自販機
- ・取引先への働きかけ

## ・地域の方とともに

- ・地域環境プロジェクト
- ・ステークホルダーへのアカウンティビリティ

# 開発研究棟 リサーチアンドラボ



ソーラー発電蓄電システム



冷温水蓄熱システム

地域・見学



運搬・流通・取引



地下  
雨水再利用オゾン処理システム

本사를兼ねるリサーチ&ラボは環境・エコを考慮して作られた研究開発棟です。

設計時、建物のコンセプトに5安「安全・安心・安泰・安堵・安寧」を掲げ、地域とのつながり・調和など、多くの思いのもと建設されました。

例えば、この独特な外観。屋根の形が風を分散し、消音・ビル風なしを実現しています。そして、環境を考えた多くの高機能を帯びています。また地下水槽が地震エネルギーを吸収し、耐震構造になっているので地震に強いです。

### ●ソーラー発電蓄電システム



屋根に張り付けてあるのがソーラーパネルです。このソーラーパネルから電力を蓄電します。またその電気を社内のLED照明や非常時のバックアップ電源としても使用できます。

蓄電容量は1時間につき約36kw(ｷｬﾌﾞﾙ)。  
この数字は800w電力を10時間3日連続で使用できる量です。

導入後4期合計で20トンのCO2を削減！

どんな効果があるの！？

使用電力量割合 (2014年9月)

総使用電力量	9947	kWh	
ソーラー発電量	3310	kWh	33 %
購入電力量	6846	kWh	67 %

この中で余計電力として売電している分

売電量 209 kWh

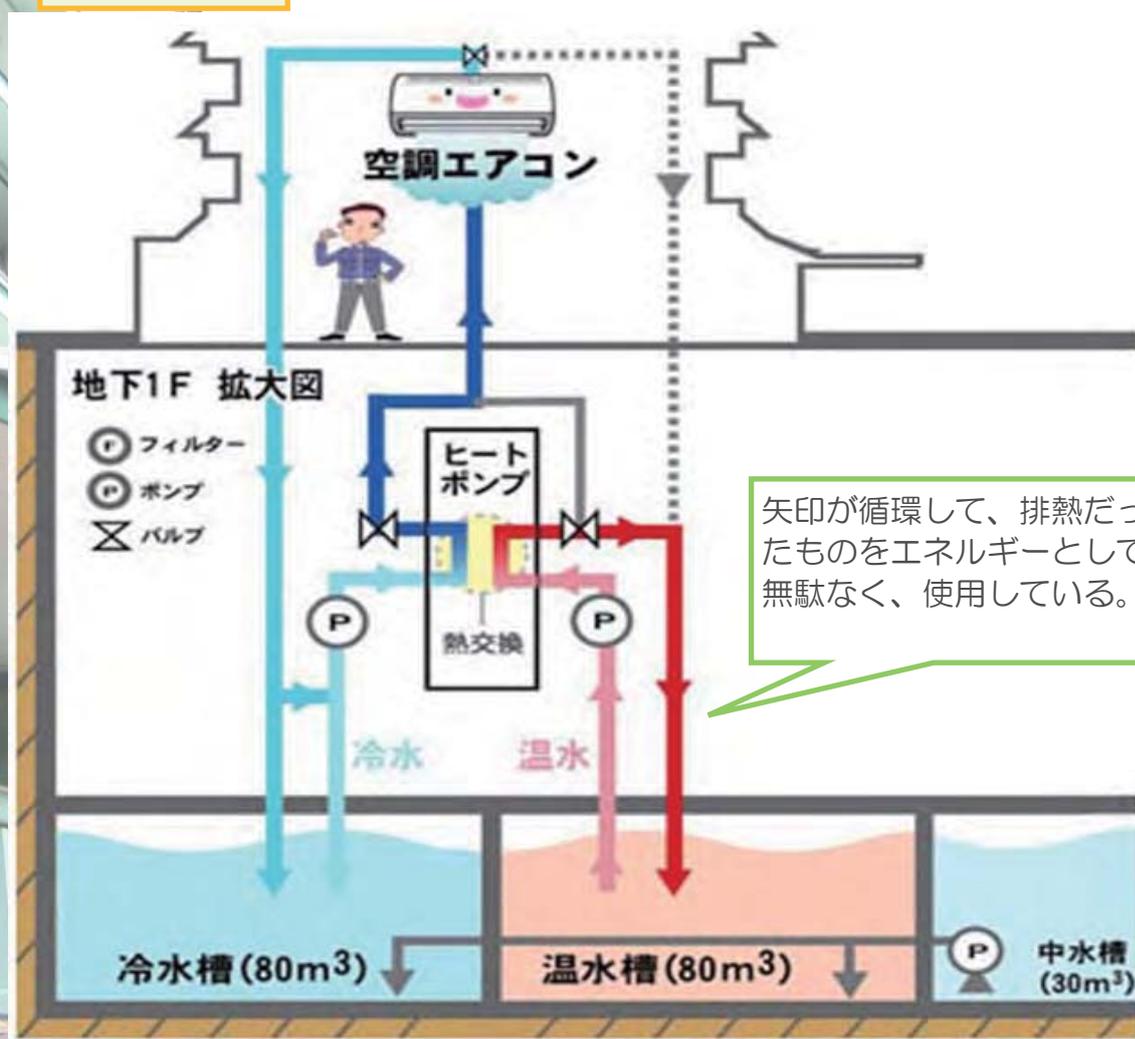
HPより

## ●冷温水蓄熱システム

一般的に電気を使用した空調エアコンは室内機と室外機を設置し、冷房時に温熱を、暖房時に冷熱を室外機から大気に排出しています。しかし、このシステムは室外機から放熱していた大気への廃熱を、熱エネルギーとして捉え、地下にある冷水槽・温水槽にヒートポンプを使い、貯め、冷水・温水として利用できるにします。その結果、チラー（温度を一定に保つための装置）で使用する電力を削減しました。また2013年に特許を取得しました。そして、多くの人に広めたいという思いから無償公開しています。

CO2を年間120~150kg削減!

～仕組み～



## オゾン技術を使った取り組み

次世代の環境保全技術を提案する環境先進ビル“リサーチ&ラボ”は、5安（安全・安心・安泰・安堵・安寧）をコンセプトに2008年6月28日に竣工されました。

### ● 雨水再利用オゾン処理システム



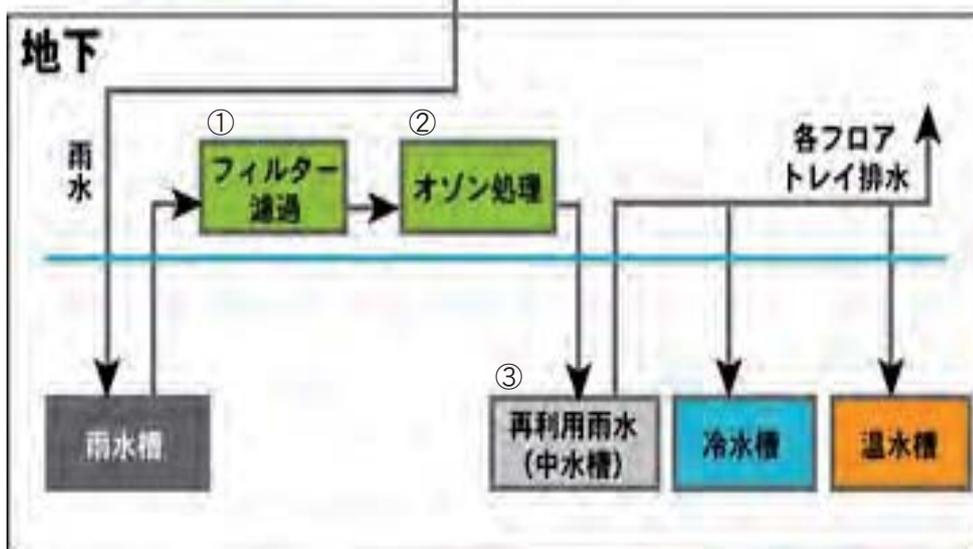
リサーチ&ラボの地下には雨水を再利用するためのシステムが設置されています。貯水槽にためられた雨水は、

- ①沈砂槽で異物の除去
  - ②リガルジョイント独自の技術“熟成オゾン水処理システム”<sup>\*1</sup>によって雨水を殺菌・浄化
  - ③中水槽に送られ貯水
- という過程ののち再利用されます。

貯水された再生水は、温水槽・冷水槽に振り分けられるほか、リサーチ&ラボ内のトイレの排水、屋根に設置されているソーラーパネルへの散水（夏季はソーラーパネルの冷却による発電の高効率化・冬季は積雪防止として散水）に使用されています。

また、緊急時には近隣の災害用水・防火用水にも使用でき、オゾン処理をしているため、非常時の飲料水としての使用も可能となっています。

大きな貯水槽が地震エネルギーを吸収するため、揺れに強い構造になっています。



\*1 ②オゾンガス発生装置

## ● ウイルスの不活性化 ～熟成オゾン水の未来～



リガルジョイント独自の技術を使い開発された「熟成オゾン水」(オゾンの泉2)を使い、A型インフルエンザ、ノロウイルス、大腸菌などを不活性化\*2させることが可能だと第三者の研究機関によって証明されました。\*3

これにより、従来の、手洗いやうがいによってウイルスを皮膚や粘膜からはがして除去する仕組みでの予防法だったものが、この時に使用する水を「熟成オゾン水」に変えることで、ウイルス自体を不活性化する予防法になり、よりウイルス感染のリスクが低くすることが可能になります。

すでにインフルエンザ・ノロウイルス感染対策の1つとして、企業・工場・学校などからの注目が集まっています。

\*2…ウイルスの感染性の消失のことをさす

\*3…財団法人北里環境科学センター、日本医療・環境オゾン学会

ウイルス名	オゾン水濃度 (ppm)	ウイルスの数	
		オゾン接触前	接触15秒後
A型インフルエンザ	3ppm	約2900万個	約8.2個

財団法人北里環境科学センターの試験結果より

### ・「熟成オゾン水」は、身体に影響はないの？

リガルジョイントの独自の技術によって開発された「熟成オゾン水」の原料は、酸素・水であり、安全です。かつ、塩素の約1.5倍の除菌効果があるといわれています。使用後は酸素と水に分離するため、エコな除菌水となっています。

### ・普通の水道なのだけれど、使えるの？

「オゾンの泉2」は、お使いのシンクに水道水経由で配管することが可能です。1回の手洗い・うがいで約0.6円(1回あたり2ℓ使用で計算)になります。また、ボタン1つで自動運転を行うため、操作も簡単になっています。



# 環境

## 日々の取り組み

2010年に相模原商工会議所の環境対策行動宣言を行い、環境規格ISO14001の認証も受け、リガルジョイントでは日々の従業員の活動から環境に対する取り組みが行われ、会社全体として省エネルギー化、エコ活動、環境貢献を推進させる大きな原動力となっています。

### ● 節電への取り組み



節電が行われているオフィス↑  
←スイッチのこまめなON・OFFを啓発している

リガルジョイントではソーラー発電システムをはじめとする省エネルギー化システムだけでなく、日々の節電行動も徹底して行っています。休憩時間や非就業場所では消灯し、また一部の照明は蓄電された電力を使用するLED照明となっています。また従業員のクールビズ・ウォームビズの実施、必要最小限度の冷暖房の使用など様々な節電への取り組みを積み重ね、省電力に努めています。

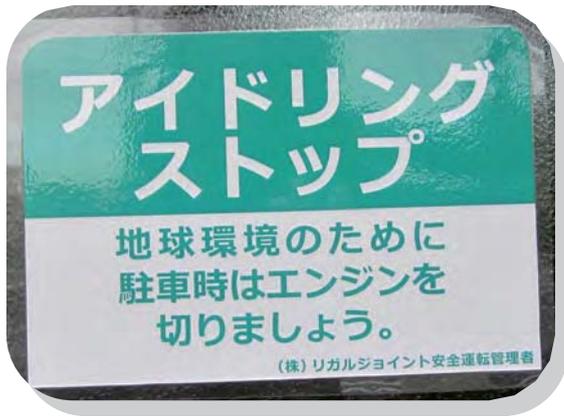
### ● エコアイデア

4つのRという言葉があります。Refuse（断る）、Reduce（ごみを減らす）、Reuse（くりかえし使う）、Recycle（再資源化する）の4つの環境への取り組みを示しています。リガルジョイントではこの取り組みを積極的に実践しています。朝礼では部署ごとに行っているエコ活動を紹介、共有をしています。

例えば梱包材を再び使用することや、A4の封筒を再利用し、ファイルとして活用すること。産業廃棄物の見える化を行いごみ削減に生かすなど社員のアイデアが会社全体の環境活動に活かされています。またリターナブル容器・リターナブル包装資材の使用も推進しています。



## ● 運搬時のエコ



### ・エコドライブの実施

リガルジョイントではエコドライブの実施として、急発進・急加速・空ふかしの排除や適正スピードでの走行はもちろんのことアイドリングストップは常に心がけて徹底しています。アイドリングストップとは駐停車や信号待ちなどの間にエンジンを停止させることで、燃料節約と排出ガス削減の効果が期待されているものです。アイドリングストップが理想的に行われると、14%程度燃費が向上するといわれています。この取り組みは自家用車、社用車問わず意識しています。

### ・CO<sub>2</sub>削減の取り組み

共同配送や帰り荷の確保などの運搬システムを合理化することで、空の車を作らないように意識するなど、CO<sub>2</sub>の削減を行っています。また、他企業への訪問の際に、車を使わず、電車で移動してみようという取り組みを行ったこともあります。



## ● マングローブ植林対応型自販機



マングローブ植林活動によって、CO<sub>2</sub>削減や海水の浄化、津波被害の軽減、さらにはこの活動が行われているフィリピンの雇用創出にもつながります。

マングローブは1本当たり年間約5kgのCO<sub>2</sub>を吸収できます。缶ジュース20本で1本のマングローブが植林可能です。

2012年より、売り上げの一部がフィリピンのマングローブ植林活動に充てられる環境改善型の自動販売機の設置を行いました。本来、コスト削減のため、撤去も考えられていたのですが、地域の方も使われているということやマングローブ植林活動を行っている企業の趣旨に賛同したこともあって設置されました。

## ● 取引先への働きかけ

外注先、仕入先、廃棄物処理委託業者などを環境保全面で評価し、その選定に活用するとともに改善支援を行っています。

災害が起こった時に使用できる水を貯水槽に約200トン貯水されています。この水は飲料水ともなるため、火災などの際だけでなく緊急時に地域の方々に飲料水として支給できます。また、地下にAEDなども設置されています。

### ● 地域社会プロジェクト

#### 花いっぱい運動

1992年に行われた「グリーンウエーブ相模原'92」においてこのような運動をしていた事を思い出してリガルジョイントでも取り入れてみようと考えたからです。

プランター（鉢）は、自動車のホイールを再利用して環境にも優しい仕組みになっています。タイヤのホイールを加工したものに、網をかけて土をひき、花を植えています。また、水のやり方にも工夫がされていて、リガルジョイント製品のマニホールドを使い、ある一定の時間になると自動的に給水され夏場の暑い日でも心配する必要がありません。この植えてある花の多くは、社員の中の有志の方々が緑化センターで選んでいます。また、夏と冬では花の種類が変わり、けやきの会の方や地域の方々にも好評でコミュニケーションの一部となっています。

※けやきの会…地域活動支援センター



### ● ステークホルダーへのアカウンティビリティ



#### 見学説明

リガルジョイントでは、施設見学を実施しており、ここでは環境に対する取り組みを説明しています。現在、見学会の頻度は月に1回程度行っていますが、見学会自体は要望があればいつでも受け付けています。建設当時はリサーチ&ラボの見た目が特徴的なため、見学回数も沢山の方が訪れました。

元々この見学会は商業目的で行っているわけではなく、『当社の取り組みをもっと色々な人々に知ってもらえるように』という思いから成り立っています。広く情報を公開することにより地域の方々との交流も深まり信頼関係を築ける取り組みとなっています。

# 環境 まとめ



## 本社ビル研究開発棟「リサーチ&ラボ」

リガルジョイント本社のビルは、研究開発をする上でクリーンなエネルギーを活用できる設備を有しています。

- ・ソーラー発電蓄電システム
- ・雨水再利用オゾン処理システム
- ・冷温水蓄熱システム

このようにリガルジョイントは本社のビルを中心に環境への取り組みを行っています。このシステムは「第1回TAMA環境ものづくり大賞」、「第1回かながわ地球温暖化大賞」を受賞しました。

TAMAものづくり大賞とは、広域多摩地域の中小企業による優れた環境経営や技術を表彰するもので、環境技術・製品や環境対応の取り組み等について特に優れており、模範となる企業を表彰するものです。そのなかでリガルジョイントの「独創的アイデアによる自社工場内の空調システム構築」が評価され、大賞を受賞しました。

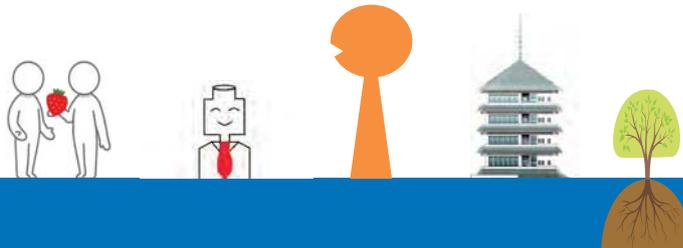
かながわ地球温暖化大賞とは、温室効果ガスの削減に具体的に寄与する優れた地球温暖化対策の取組実績について事業を対象に、知事名で顕彰を行うものです。リガルジョイントの研究開発棟に導入しているシステムが評価されました。

今後リガルジョイントが環境に対し更なる貢献していくためには、内部の環境への取り組みだけでなく、地域の方々の理解や協力が大切であると考えています。そのため、取り組みをもっと色んな人に知ってもらえるようにという思いから施設見学の実施、また売り上げの一部がフィリピンでのマングローブ植林活動に充てられる環境改善型の自動販売機の設置をするなどの取り組みを行っています。それに加え、日々の節電や再利用の積み重ねをし環境へ貢献していきたいと考えています。

# 3つの まとめ

## リガルジョイントのCSR

ここまで皆様にはリガルジョイントのさまざまなCSR活動についての報告をおつきあいいただきました。ここではここまでに見てきたリガルジョイントの3つのCSRについてまとめます。



### ●3つのCSR

#### 「社員」「共生」「環境」

リガルジョイントではこの3つの項目全てに対して自信のあるCSR活動を展開しています。

社員に対するCSRでは、稲場社長が従業員満足度アンケートの結果、生まれたLOVE休暇など、社員と一緒に会社をより心地よい場所にしていける取り組みをしています。

共生(企業・地域)に対するCSRでは、リガルジョイントの代表商品であるカンタッチを始め、顧客からの要望のもと、「無いものをあるものにする」をモットーに活動を続けています。また地域の方々とのより良い交流のあり方も常に模索をしています。

環境に対するCSRでは、震災時などに飲料水として使える綺麗で安全な水を貯めておける地下の貯水槽を自社の研究棟に備え付けるなど、他社にはないCSR活動を展開しています。

このようなCSR活動の土台には、41年間に渡るリガルジョイントの企業風土があります。

#### 「知恵を形に」「決断・判断・行動・スピード」「チャレンジ精神」

この3つの企業風土はリガルジョイントのCSR活動をより強固なものとしています。CSR活動を通してリガルジョイントは多方面に好影響を生み出し続けます。

最後に、リガルジョイントが行っているCSRを種をまくことに例え、お伝えします。

#### リガルジョイントがまいた種…

社員という土にまいた種は、リガルジョイントの理念を理解し、仕事の本質をとらえた花となる。

地域という土にまいた種は、地域の中で最も大切にされ、相模原で最も愛される花となる。

企業という土にまいた種は、多くの企業に尊敬され、頼りにされる「知恵」を持った花となる。

環境という土にまいた種は、未来の地球を包み込む、環境に優しい花となる。

リガルジョイントがまいた種、それらは笑顔を生み出す花となってリガルジョイントをより彩っていくでしょう。

そしてさらなる好影響を生み出しリガルジョイントは世界に羽ばたくメーカーとなっていきます。

# 編集後記

ここまでリガルジョイントのさまざまなステークホルダーに対するCSRを見てきました。

この報告書を手を取った時と今では、CSRという言葉から受ける印象は変わったでしょうか？  
また、リガルジョイントに対する理解を深めることが出来たのであれば幸いです。

まとめに少しだけ歴史を振り返りたいと思います。

稲場久二男会長がリガルジョイントを創設した時は

「小さくてもいいからメーカーになろう」という夢がありました。

その夢をかなえるべく、それまでに築き得た幅広い人脈や知識を駆使し、商品開発をしてきました。  
中でも現在の主力商品である「カンタッチ」は、“抱えた在庫をサンプルの形で無料配布する”  
という大胆な発想から始まり、リガルジョイントがメーカーへ成長するきっかけをつくりました。  
そして時代は流れ、父親である久二男さんから息子の純さんへ、社長のバトンが受け継がれました。  
そして現在、稲場純社長は「世界に羽ばたくメーカーへ」と大きな夢を掲げています。

私たちは会長や社長の話を伺っていく中で、「決断」・「判断」・「行動」・「スピード」の大切さを強く感じ、そして夢に向かって突き進むことが夢を叶える方法なのだと学びました。

リガルジョイントでは、社員・企業・地域・環境をはじめとするさまざまなステークホルダーに対して、今後さらなるCSRを展開していきます。

この3か月間、私たちは大学生という立場でリガルジョイントを見てきました。

幾度となく学校に訪問していただき、その場での質疑応答や、企業訪問時など、忙しい時間を私たちに割いてくださるばかりでなく、リガルジョイントの皆様は私たちを正面から受け止めていただき、そして親切に接してくれました。

このような機会に巡り合えたことに喜びを感じます。

最後になりますが、稲場久二男会長、稲場純社長をはじめとするリガルジョイントの方々、  
私たちのCSR報告書の作成にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

これからのリガルジョイントのご発展を祈り、本報告書の結びとさせていただきます。



学部横断型課題解決プロジェクト CSR 報告書

平成 26(2014)年 12 月 20 日

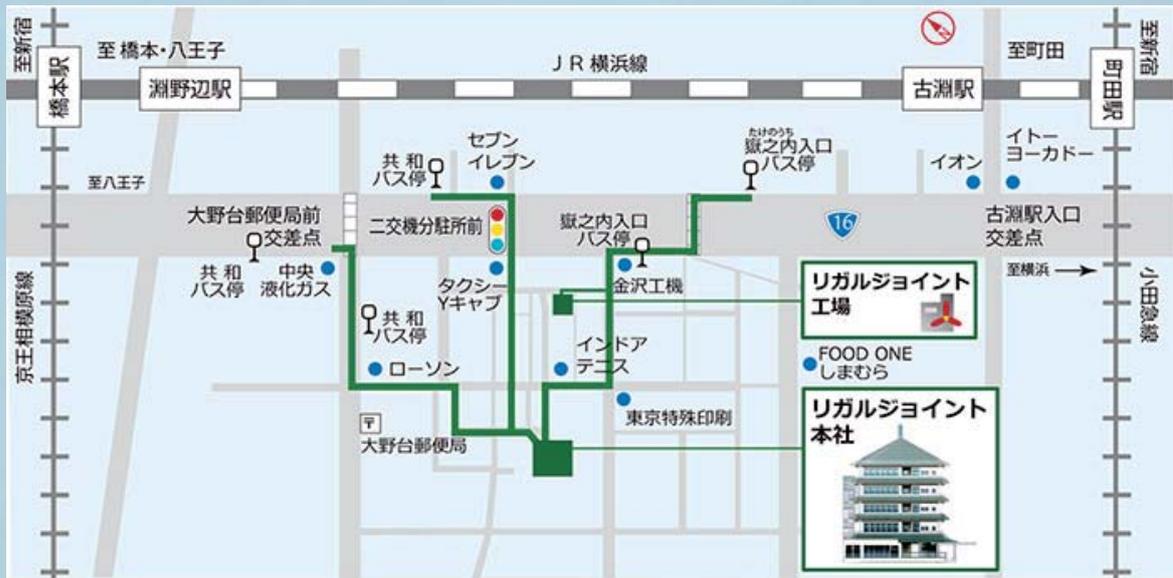
---

武蔵大学三学部横断型ゼミナール・プロジェクト

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1

TEL 03-5984-3830(学部横断型課題解決プロジェクト運営チーム)

発行責任者 学部横断型課題解決プロジェクト運営チーム



本社・工場

〒252-0331

神奈川県相模原市南区大野台1-9-49

URL

<http://www.rgl.co.jp>

